

20231010 さくら学級の学びから：段ボールコンポストのすすめ

金曜日は、さくら学級の研究授業でした。さくら農園で心を込めて野菜を育てるところからこの学びは始まりました。育っていく野菜を世話し見守る中に、理科的な視点、命のかけがえなさなど、多くの発見、学び、心の成長があったことと思います。そして、自分たちが育てた野菜たちを使った美味しいカレーパーティーを楽しみます。

子どもたちは、この自分たちの育てた野菜とお店で売られている野菜との比較の中で、「規格外野菜」というものがあることを知ります。これは、人の都合で人が決めた規格です。規格外の野菜の多くは流通に乗ることもなく廃棄されます。その量は、フードロスとしてカウントされません。統計の「もったいない」にすら入れてもらえないのです。しかし、世の中ではそのことは「見て見ぬふり」をされているように思います。こうした規格外野菜の廃棄は、これからも繰り返され、ストップすることなく続いていくのでしょうか。「知らないふりはやめようよ」「だれかなんとかしようよ」こうした思いや声を広げていくことは、とても意味のあることだと思います。こうした学びを積み重ねた子どもは、よりよく生きようとする意志を強く持って未来を見つめ、今を生きていく人に成長していけるのではないかと考えます。

さて、規格外野菜と併せて、生ゴミについてもさくら学級は学びの中で考えようとしていました。生ゴミ処理については、これまでも述べてきました。小平市や渋谷の学校の取組についても紹介してきました。今回、さくら学級の研究授業でご指導いただいた根本裕美先生と授業後に懇談させていただいたときに、先生はご自宅で「段ボールコンポスト」を実践されていると伺いました。この段ボールコンポストは、実に手軽にすぐに始めら

れる生ゴミ処理です。小平市でも資源循環課が、市民向けの講習会を行っていて、この講習会にはさくら学級の先生にも参加してもらいました。以下、福岡県筑紫野市ホームページからご紹介します。

[9184.pdf \(city.chikushino.fukuoka.jp\)](http://city.chikushino.fukuoka.jp/9184.pdf)

「段ボールコンポスト」は、自宅で簡単にできる「生ごみ処理機」のことです。家庭からどうしても出てしまう生ごみを基材の入れたダンボール箱に投入し混ぜるだけで、家庭菜園などで使える肥料を作ることができます。ごみが減りごみ袋が節約されるだけでなく、堆肥に利用することで資源の有効活用につながるなど、環境にも家計にも優しい取り組みです。生ごみは水気が多いため、続けていると基材に水分が溜まり、微生物の分解を阻害してしまいます。そこで通気性がよく、水分を吸収するダンボールは、初めてコンポストを始めるのに最適な容器です。また、ダンボールは簡単に手に入る点もメリットです。

<準備するもの>

- ・段ボール箱 ・底に敷く段ボール板 ・ピートモス 9 リットル ・燻炭 6 リットル
- ・段ボールを置く台 ・Tシャツなどの布 ・スコップ ・温度計

<作り方>

1. 虫の侵入を防ぐため、ダンボール箱のすき間をガムテープで塞ぐ。
2. 底が抜けないように、箱の底に別のダンボール板を敷き、二重にして補強する。
3. ピートモス 9 リットルとくん炭 6 リットルを箱の中に入れて、よく混ぜる。

※ピートモスとくん炭の割合は 3 対 2 がベスト！

4. 風通しがよく、雨がかからない場所で、ブロックなどの台の上に載せて置く。

※ダンボールは水を含むと崩れる原因になる。湿気がこもらないようにするのがポイント！

<使い方>

1. 水を切った生ごみを入れる。1 日の投入量※は 500 グラム程度にする。

※生ごみを切るなど、小さくすると分解が早くなる。

2.空気が中に入るように、スコップでよくかき混ぜる。

3.スコップと温度計を中に入れたまま、布で上から蓋をする。

※外に出していると虫に卵を産み付けられることがあります。

4.温度や水気に気を付けてながら、1 から 3 を 3 カ月程度繰り返す。

※開始から 2 週間ごろ経って、温度が 20 度から 60 度に上がれば、分解が始まった合図です。

※分解が進まないときは、油や米ぬかを入れると、微生物が活発になって改善します。

5.生ごみの投入を止めて 2、3 日置きにかき混ぜ、1 カ月かけて熟成させる。

6.水気がなくなり、サラサラになったら肥料の出来上がり。

できた肥料は濃度が高いため、3 倍の土と混ぜて使う！

くわしい動画はこちらから

[生ごみが肥料に！？ダンボールコンポストを始めてみませんか - YouTube](#)

生ゴミ処理機は、最近通販でもよく売られています。しかし、ほとんどは熱風で生ゴミを乾燥させる方式をとります。小平市の給食室に配備されているものもこの方式です。臭いが出ないのが最大の特徴ですが、電気をたくさん使ってしまいエコではありません。このコンポストによる堆肥作りは、微生物による「発酵」の力だけで行います。微生物たちにとって不可欠な新鮮な空気が十分供給されないと、「発酵」ではなく「腐敗」による分解が始まります。それは強い悪臭を放ち変な水が出てきます。プラスチック製のものでは、この大切な空気の供給が不十分になりうまくいかないことがあります。それに対し、段ボールコンポストは、素材が空気を通す上に調達がしやすいのがメリットです。もともと紙ですから、生ゴミの水分でへたってしまわないように、少し頑丈な素材を選ぶといいですね。気軽に循環型ライフスタイルを始めてみませんか。